

平成25年度 政務活動費 先進都市調査報告書

会派名	元風ネット
議員名	金濱 元一 ・ 南川 達彦
調査実施年月日	平成25年5月22日
調査先 自治体名等	東京都 八王子市 ・ 市民活動支援センター ・ NPO 法人からまつ
調査項目	市民活動支援センターの運営 ・ 放課後児童対策施設について
調査目的	民営での市民活動支援センターの運営 町会としての児童館運営
報告内容 実施したこと	<p>1 視察先(市町村)の概要 人口：553,914人(H24.4.1現在) 行政面積：186.31 km²</p> <p>2 視察内容 八王子市役所 市民活動推進部 協働推進課 松岡様、NPO 八王子市民活動協議会 理事長 石井様、NPO 法人からまつ 理事長 佐藤様にお話をうかがった。</p> <p>民営での市民活動支援センターの運営 八王子市民活動支援センターは、市民協働を推進することを目的とし、平成14年から市民団体と市民会員を募集し協議会を立ち上げ、議論を重ねて平成15年に開設された。 職員は9名、予算は1800万円(うち市からの委託料1400万円)で運営。 主な業務内容としては、市民活動団体の情報発信(通信・HP・メールマガジン)、センター施設運営・団体運営などの相談・コーディネート業務などを行っていました。特徴ある取組みとしては、市民団体の育成事業と物資支援のためのファンドをおこなっています。市民団体の相談として活動資金がないということが多いために事務局機能強化を目的とした講座を開くなど、市民団体の体制の強化に取り組まれています。 センター運営の課題として、職員の高齢化があり、若い方に仕事を担ってもらいたいが、生活をしていくほどの人件費を出すことが出来ないというので難しいということでした。</p> <p>町会としての児童館運営 唐松町会は、放課後児童対策施設として自主学童クラブを22年間運営しています。市から児童施設として認めてもらうため、平成18年に「NPO 法人からまつ」を設立し、現在は、4つの学童保育所、5つの親子のつどいの広場、障害者就労施設の指定管理者となり運営しています。 22年前から「地域のこどもは地域で育てる」という理念のもと、保育所の保育士は出来る限りその地区からだそうと地域の方へ保育士の資格を取るよう進めていたり、地域の教育機関との連携、そして町会や高齢者団体などとの地域連携を重要視して運営に取り組んでいる。 問題提起としてお話にあったのが、NPO 法人になったことで地域性が薄れているということ。NPO 法人ということで、公的な機関のように思われがちで、保護者たちとの関係性が町会がもととなって運営していた頃より薄くなっているような印象があるということも指摘されておりました。</p>

**感想（まとめ）
本市へ生かせること
等**

八王子のセンターを調査させていただき、公設民営の市民活動センターの大きな特徴であるソフトの充実について深く理解できました。
本市の市民活動センターは現在公営で運営しており、民営も検討しているというのですが、八王子の場合のように市民団体・市民会員を募り協議会を作った中でしっかりと議論すべきだと思います。
八王子の課題であったように今後、若い世代の参加を促す為に人件費をどのようにしていくのか、本市でもしっかりと考えていかなくてはならないと思います。
また、運営の議論と共に市民団体への支援としての団体運営講座などのソフト面の充実を促進していきたい。
物資支援のファンドは、企業から不用となった備品を提供してもらい、市民団体へつなぐという非常に合理的な仕組みで、本市でも取り組める内容だと思う。

地域でのつながりが希薄化しているといわれ、高齢者の孤立化、子育ての孤立化が問題となっています。唐松町会の取組みは、こうした問題に対して非常に先進的であり、市民協働の見本であると感じました。
唐松町会のような自治会を育てるためにも、自治会の力をより引き出す為の行政としてのバックアップをどうしていくのかを議論していかなくてはならないと思います。
地域のつながりとして地域の年配の方を里山講師と招き、子どもたちに里山遊びを体験させる活動は、町会の中ですぐにかせる活動であり、自治会へ世代間交流を図る事業として積極的に提案していきたい。